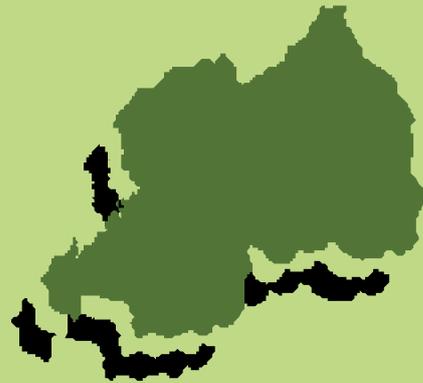


世界の国を知る  世界の国から学ぶ

わたしたちの地球と未来

 ルワンダ共和国 



【表紙の写真】

(左上) プレラ湖

(右下) ルワンダの女性

Contents

01 こんな想いを込めました!

02 こんな教材です!

03 なぜルワンダ共和国?

第1章 ルワンダってどんな国?

= 勤勉で友好的な国民性

急速な復興を遂げる『千の丘の国』=

05 ルワンダ何でもウソ・ホントクイズ

07 直感! ルワンダ・フォトギャラリー

09 食にまつわるエトセトラ♪

11 ちょっとブレイク

～マウンテンゴリラ・トレッキング～

第2章 へえ～! ルワンダと日本

13 比べてみよう ルワンダと日本 ～地理・産業編～

15 比べてみよう ルワンダと日本 ～暮らし編～

17 比べてみよう ルワンダと日本 ～歴史編～

19 ちょっとブレイク

～カップ・オブ・エクセレンス～

第3章 一緒に考えよう! こんな課題

21 ルワンダ内戦を考えよう その1

23 ルワンダ内戦を考えよう その2 対立から学ぼう

25 参考資料 ルワンダ紛争

27 参考資料 ガチャチャ裁判 ～ルワンダの国民和解～

28 参考資料 和解への取り組み

29 フォトギャラリー ～ルワンダ日常の風景～

31 「ルワンダってこんな国」ふりかえりシート

第4章 そして未来へ

33 世界を変えるスピーチ

35 この星をこれ以上こわし続けなくて

～12歳の少女が地球サミットで語った伝説のスピーチ～

★参考資料★

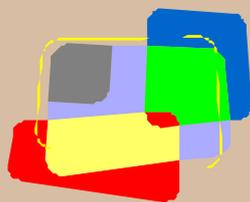
39 目で見るルワンダ

41 ルワンダ地図

43 参考文献・データ等の出典

43 ご協力いただいた方たち

43 2009年度教材作成チーム



こんな想いを込めました！

愛知万博で体験した国際交流の楽しさを広げていきたい!!つなげていきたい!!
そんな想いが本書作成のきっかけでした。



● 国際交流は楽しい！

『世界大交流』をうたった2005年愛知万博。120カ国の文化や生活に触れたり、いろいろな国の人たちと話をしたりすることは、とても楽しい経験でした。「国際交流」は決して難しいことではありません。自分の視野を広げ、他者を尊重する力を育むことにもつながり、そうした力は多文化共生社会を実現するためにも欠かせません。そんな国際交流の楽しさ、大切さを愛知から発信していきたいと考えました。

● 人の顔が見える教材をつくりたい！

「日本ってこんな国」「日本人ってこんな人」って決めつけられて違和感を感じた経験はないでしょうか？ 国全体の概要を知ることもちろん大切ですが、何となく持っている固定概念をもしかしたら裏切るような、「へえ〜。こんな一面もあるんだ」と意外に思えるような、そんな教材をつくりたいと考えました。そうすることによって、「わたしたちが世界のことをいかに知らないか」ということや「普段見聞きしている情報はほんの一面にすぎない」ということに気づいてもらうとともに、そこに住んでいる人々を身近に感じてもらえたらいいなと思います。

● 世界の国から学ぶ！

どんな国もいいところ、悪いところ、いろいろな面を持っています。何が幸せなのか、「豊か」の基準は何なのか、といった価値観もさまざまです。例えば、途上国だから「かわいそうな国」ではありませんし、紛争があるから「こわい国」でもありません。日本にもたくさん問題があります。様々な国の、特にすばらしいところを知ることによって、対等な関係をつくるとともに、自分たちの地域や生活をふりかえることができると考えました。国にも人にも文化にも優劣はないことを踏まえて、お互いに学び合える関係ができればいいなと思います。

● 未来を創るのはわたしたち！

地球はさまざまな課題を抱えています。環境や人権や平和など、日本も無関係ではありません。地球に住む一人ひとりがそれらの課題に取り組まなければ、よりよい未来を創ることはできないのです。そしてよりよい未来を創るためには、今、地球で起こっていることは何なのかを知り、それが自分とつながっていることに気づくことが大切だと考えました。本書に掲載されていることは、地球で起こっていることのほんの一部ですが、それらを通して感じたこと、気づいたことが未来につながっていくといいなと思います。



こんな教材です！

次のようなことを考えて作りました。

●ファシリテーター・先生用の教材です

内容については、小学生高学年以上を対象としていますが、本書自体は、ファシリテーター（参加型プログラムの進行役）や先生に使っていただくための教材となっています。ことば遣いなど、対象に合わせて直してください。必要に応じてコピーし、配布していただいても結構です。

●参加型で使うことができる教材です

情報・知識を聞くだけでなく、考えたり、作業をしたり、話し合ったりすることによって楽しく学べるとともに、その中で何かを感じたり、気づいたりしてもらえそうなプログラムにしました。基本的には4～6人のグループに分かれて行うプログラムになっています。必ずしも正解があるものばかりではありません。参加型のプロセスを大切にいただければと思います。

●きっかけづくりの教材です

本書で紹介したのは、ルワンダのほんの一面です。本書だけでルワンダのすべてがわかるわけではありません。ルワンダに親しみを感じ、関心をもってもらうと同時に、自分たちの地域をふりかえり、地球的課題を考えるきっかけとして活用してください。

●使い方は自由です

とはいうものの、使い方は自由です。もちろん、最初から順番にやる必要はありません。対象に応じてプログラムの進め方を変えたり、時間的な条件によって短縮したりするなど調整することもできます。参加者にあわせてどんどんアレンジして使ってください。巻末に参考資料を掲載していますので、最新のデータが必要なときや、もっと深めたいときは、活用してください。

●カラーデータ・写真はダウンロードできます

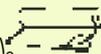
カラーデータ・写真については、(財)愛知県国際交流協会のホームページからダウンロードできます。ただし、著作権は出典元または(財)愛知県国際交流協会に帰属します。学校関係や国際交流団体等が教育の目的で非営利に使う場合に限り、活用していただけます。

●本書の構成とマークの見方

基本的に、1項目2～4ページで掲載しており、実際に使っていただくプログラムと、それに関する説明とで構成されています。それぞれのプログラムの「ねらい」も記載していますので、参考にしてください。また、ページの下段に掲載している一ロコラムは、プログラムとは関係なく、ちょっとおもしろい情報や用語の意味などです。必要に応じて活用してください。なお、本書で使っているマークの意味は次の通りです。



参加型のプログラムです。
必要に応じてコピーし、配布してください。



プログラムで模造紙を使います。



プログラムに関する説明です。
ファシリテーター・先生用です。



プログラムでマジックを使います。



プログラムのねらいです。



プログラムで付箋を使います。



ちょっとブレイク！一ロコラムです。



プログラムでA4用紙を使います。
裏紙等を活用してください。



プログラムに使う資料です。
必要に応じてコピーし配布してください。



データ等の出典です。



コピーし、カード等に切り離して
使ってください。



写真の撮影者です。



なぜルワンダ共和国？

始まりは、2005年愛知万博「一市町村一国防レンドシップ事業」

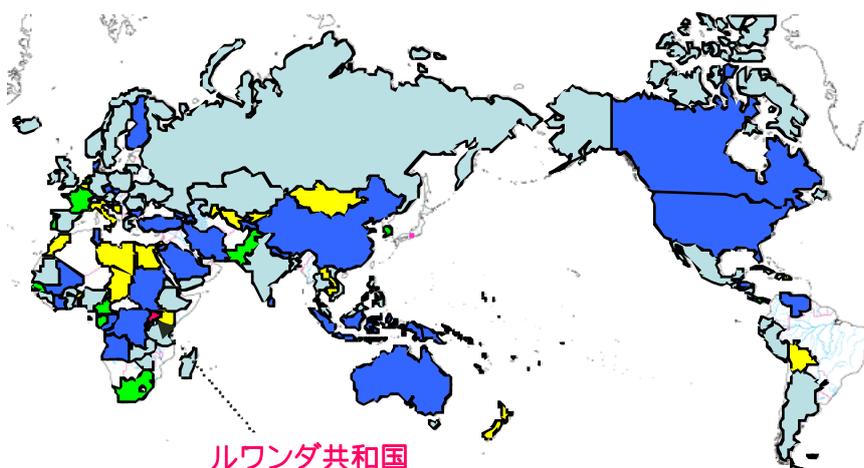
2005年に開催された愛知万博の会期中愛知県内の市町村は、公式参加国120カ国（日本を除く）のホームシティ・ホームタウンとして、地域ぐるみのホスピタリティあふれる受入を行いました。この取り組みを「一市町村一国防レンドシップ事業」と言います。このフレンドシップ事業では次の5つのことをねらいとしました。

- 世界各地から訪れる人々に日本や日本人を理解してもらう
- 迎え入れる地域の人々に、交流を通じて、世界には多様な価値や文化があることを知ってもらう
- 万博会場内だけではなく、地域でもてなすことで、万博を相互交流を深めるための大きな舞台とする
- 地域文化を世界に発信することにより、各地域が自らの文化を再発見し、地域のあり方や発展の方向性について学ぶ機会とする
- 地域に根ざした「人」と「人」との交流を万博終了後も引き継ぎ、世界の人々をつなぐ架け橋としてさらに発展させる

この「一市町村一国防レンドシップ事業」をさらに広げ、つなげていこうと作成したのがこの教材です。そして、ルワンダ共和国のホームシティは、清須市(旧西枇杷島町)でした。



愛知万博／アフリカ共同館



ルワンダ共和国

- : 本教材
- : 2009年度教材作成予定の国
- : 2008年度教材作成の国
- : 2007年度教材作成の国
- : 愛知万博公式参加国

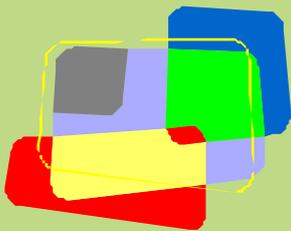
2009年度作成 予定 (33カ国)	アゼルバイジャン共和国 アメリカ合衆国 アンゴラ共和国 イラン・イスラム共和国 インドネシア共和国 ウガンダ共和国 オーストラリア連邦 カナダ グルジア コートジボワール共和国 コンゴ共和国 サントメ・プリンシペ民主共和国 スーダン共和国 スリランカ民主社会主義共和国 タイ王国 タジキスタン共和国 中華人民共和国 チュニジア共和国 デンマーク王国 トルコ共和国 ネパール連邦民主共和国 パプアニューギニア独立国 フィンランド共和国 ブルガリア共和国 ベネズエラ・ボリバル共和国 ベリーズ ボスニア・ヘルツェゴビナ ホンジュラス共和国 マーシャル諸島共和国 マリ共和国 ヨルダン・ハシェミット王国 リトアニア共和国 ルワンダ共和国
2008年度作成 (20カ国)	イタリア共和国 ウズベキスタン共和国 エジプト・アラブ共和国 エルサルバドル共和国 カンボジア王国 キリバス共和国 キルギス共和国 ケニア共和国 サウジアラビア王国 大リビア・アラブ社会主義人民ジャマール・ヒリーヤ国 チャド共和国 ドミニカ共和国 ニュージーランド フィジー諸島共和国 ベナン共和国 ベルギー王国 ポリビア共和国 モロッコ王国 モンゴル国 ラオス人民民主共和国
2007年度作成 (10カ国)	オランダ王国 ガボン共和国 カメルーン共和国 セネガル共和国 大韓民国 パキスタン・イスラム共和国 パナマ共和国 フランス共和国 ポルトガル共和国 南アフリカ共和国



第1章

ルワンダってどんな国？

＝勤勉で友好的な国民性
急速な復興を遂げる『千の丘の国』＝



ルワンダ何でもウソ・ホントクイズ

① ルワンダってどんな国? クイズに答えてみよう。

① ルワンダは赤道付近に位置した熱帯地方独特の非常に暑い国です。



② ルワンダは内陸国で海がなく、人々が魚を食べることはありません。



③ ルワンダの国土面積は小さく、アフリカ53カ国中에서도小さいほうから数えて10番以内に入ります。



④ ルワンダの人口密度は高く、世界中でも10位以内に入ります。



⑤ ルワンダは女性議員が多く、全体の56%を占め世界中でもトップです。



⑥ ルワンダでは全人口の8割以上が農業を営むほどの農業国です。



⑦ ルワンダでは、赤ちゃんに名前をつけることをとても大切にし、ゴリラの赤ちゃんにも名付けの儀式を行っています。



⑧ ルワンダの慣わしでは、女性が自ら編んだバスケットを婚約者の母親に贈ります。



⑨ ルワンダは鉄道網がよく整備されていて、物資の流通における地域格差は比較的少なくなっています。



国土全体に丘が連なるルワンダは「千の丘の国」と呼ばれています。私たちがイメージする「アフリカの大平原」とは少し違った印象を受けるかもしれません。首都キガリでも坂道や曲がりくねった道が多く、散歩をするのが大変です。



P.5のこたえと解説です。



ルワンダという国を多様な視点から理解する。

- 1 **×**
ウン ルワンダは、赤道より緯度で数度だけ南に位置していますが、国土のほとんどが海拔1000m～4500mの丘陵地なので、高山気候の影響が強く、年間の平均気温は20.4℃で月々の平均気温も20℃前後で安定しています。ただし、山地の北部火山群では朝夕10℃以下になることもあり、南部では霜が降りることもあります。
 ルワンダ大使館ウェブ・外務省ウェブ「探検しよう!みんなの地球」
- 2 **×**
ウン ルワンダは海に面していませんが、いくつかある湖には漁民もいて、魚を食べる習慣もあります。湖では釣りを楽しんだり、砂浜の水辺で泳いでみたりと水に親しんでいます。
- 3 **○**
ホント 面積は26,300Km²で201ヶ国中145番目の大きさ、アフリカの中では9番目に小さな国です。
 世界経済のネタ帳ウェブ
- 4 **○**
ホント 人口密度は、364.68人/Km²で、国別ランキングでは全世界で10番目、アフリカでは1番人口密度の高い国です。
 世界経済のネタ帳ウェブ
- 5 **○**
ホント ルワンダでは、憲法で女性議員数が全体の30%を超えるように決められているので、女性議員が世界で最も多く、2009年3月の列国議会同盟 (IPU) の年次報告では、ルワンダが世界で初めて女性議員が過半数の56%を占め、世界のトップになったと発表しました。
- 6 **○**
ホント ルワンダの人口は2006年の統計で920万人、そのうちの84%が自給農業に従事し、国経済は圧倒的に農業によって支えられています。
 ルワンダ大使館ウェブ
- 7 **○**
ホント 2005年から始まった「ゴリラネーミングセレモニー」は、毎年6月に観光客や地元の人々と共に盛大に開催され、ゴリラを愛する人たちから集まったたくさんの寄付金で、ゴリラの保護やふもとの村の道路・学校の建設などに使われます。
- 8 **○**
ホント 昔から娘が年頃になると、母親からバスケットの編み方を習います。上手に編んで、一人前の女性の証として婚約者の母親に贈るのが慣わしです。
- 9 **×**
ウン 国内の道路網はよく整備されていて、地方の流通ギャップは他国に比べると格段に少ないですが、鉄道はありません。隣国との交通アクセスは、主に陸路と首都キガリの国際空港です。



ルワンダは大変気候に恵まれ、一年中が春のようなとてもすがすがしい天気です。雨季には大雨も降りますが、一日中降り続くことはほとんどなく、雨が止むとまた美しい青空が現れます。

直感！ルワンダ・フォトギャラリー

① ルワンダのイメージと近いものと意外なものを1つずつ選んで、理由を話し合ってみましょう。

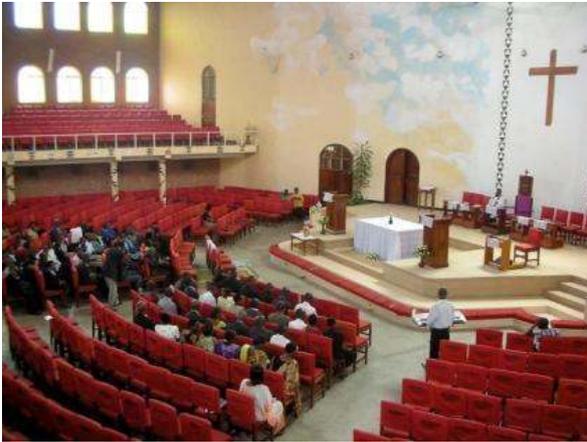
A



B



C



D



E



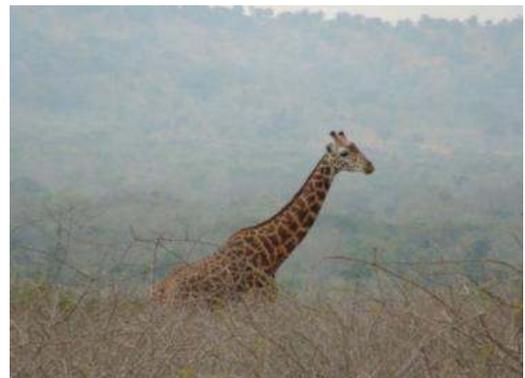
F



G



H



A ニャブゴゴ・マーケット

キガリ市内のニャブゴゴというところにあるマーケットで、衣類を扱う一番大きなマーケットです。中古の靴やかばん、衣類、寝具がコーナーごとに分かれて売られています。



右の写真は、キブンゴの衣料品市場

B アガセチェ

ルワンダに伝わる伝統的な技法で作ったアガセチェ(Agaseke)と呼ばれるかごです。結婚式の贈り物などを入れるために使われ、ルワンダを象徴する工芸品で、平和の象徴として国章にもデザインされています。

📖 嵯山裕記

C 教会

ルワンダ国内の宗教の割合は、約56.5%がカトリック教徒、約26%がプロテスタント教徒、約11.1%がキリスト再臨派(アドヴェンテスト)教徒、約4.6%がイスラム教徒、0.1%が伝統宗教と言われています。全体の9割くらいがキリスト教なので、各地に教会があります。

🌐 ルワンダ大使館ウェブ

D 段々畑 E プレラ湖

ルワンダは、国全体に山や丘そして湖が多く、坂や曲がりくねった道がたくさんある国です。水と緑が多いので農作物が豊富で、整然とした段々畑が続いています。

F ダンス

音楽とダンスは、人々の心を一つにする重要な役割を持っています。ルワンダでは、「丘の数だけダンスグループがある」と言われるように、学校や地域社会を中心にたくさんのダンスグループがあり、お祝い事や公式のセレモニーなど種類も豊富で、どれも美と勇気、深い意味合いを美しい旋律で表現した叙事詩的なものです。祝福のダンスには“ドラム・オーケストラ”がつきものです。



G 幼稚園

ルワンダの教育システムは、幼稚園3年、プライマリ(初等教育)6年、セカンダリ(中等教育)6年、それ以上の高等教育から成り、ほぼ日本と同じです。初等教育就学率は93.5%、成人識字率は64%です。

📖 嵯山裕記

H アカゲラ国立公園

ルワンダの西部、タンザニアとの国境に位置するアカゲラ国立公園は、ルワンダらしい丘と畑の風景とはまったく違った趣で、開けた草原が点在する森林地帯が広がり、ゾウ、キリン、シマウマ、バファロー、トピ、ライオン、ブチハイエナ、カバ、クロコダイルなど、たくさんの動物が見られます。



食にまつわるエトセトラ♪

① ルワンダの人々はどんなものを食べているのかな？

下の写真は、ルワンダの一般的な料理です。
それぞれの料理を見て、どんな食材が使われているか当ててみましょう。

① メランジェ



② メランジェ



③ イギサフリア



④ イソンベ



⑤ 煮物



⑥ 煮物



⑦ 煮物



⑧ プロシエツ





使用されている食材

- A メランジェ: ジャガイモ、黒豆、米、グリーンピース、ほか
- B メランジェ: バナナ、ジャガイモ、鶏肉、米
- C イギサフリア (鍋で煮込んだ料理): バナナ、ヤギ肉
- D イソンベ: キャッサバの葉 (ナス、ニンジン等、他の野菜と合わせて煮込みます)
- E 煮物: 黒豆
- F 煮物: バナナ、トマト、ピーナッツ
- G 煮物: キャッサバ、豆
- H プロシエット: ヤギ肉

ルワンダの食事

写真ABの「メランジェ」とは、盛り合わせの意味で、ルワンダではビュッフェ形式で食事を出すところが多く、おかずがずらりと並びます。

ルワンダで食材の基本となるのは、バナナ、豆、ジャガイモ、サツマイモ、キャッサバ、米などで、地方によって様々です。

肉はヤギ肉がポピュラーで、ビールのおつまみの定番ですが、牛肉やチキンなども食べます。ただ、農村部では牛がステータスシンボルと考えられているため、めったに食用にはせず、せいぜい月に2度食べる程度です。また、湖の近くではセラピアなどの魚を食べています。



セラピア



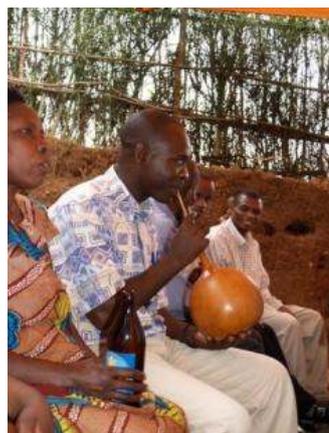
おいしいバナナのお話～ルワンダ東部・キブンゴ～

ルワンダではバナナをよく食べます。特に東部地方はバナナの産地といわれていて、バナナ畑が広がっています。

ルワンダには黄色いバナナと緑のバナナがあります。日本ではなかなか見かけない緑のバナナは、調理して主食として食べられます。甘みやバナナらしい香りはなく、イモのような感じです。トマトと一緒に煮込んだり、油で揚げると、ほこほこ柔らかくなってとってもおいしいです。大人なら大きいバナナがだいたい四本で一食分だそうです。町ではたわわになったバナナの大きい房を頭に寄せたり、自転車に積んだりして配達している姿をよく見かけます。

デザート用の黄色いバナナも産地で食べると本当においしいです。市場のフルーツ売り場では、台の上いっぱい食べごろのバナナが並び、15本くらいの房を市場なら30～40円くらいで買うことができます。完熟のバナナは柔らかく皮も薄いので、付け根のところでちぎれやすく、両手で丁寧に扱わなければいけません。

また、ルワンダにはバナナビールとよばれる、バナナを発酵させてつくる飲み物もあります。結婚式などではひょうたんに入れて飲みます。バナナの香りがする甘いお酒です。





ちょっとブレイク

～マウンテンゴリラ・トレッキング～



マウンテンゴリラについて

マウンテンゴリラは、約800万年前にヒトと進化の枝分かれをした、人間に最も近い霊長類の一種で、DNAの約97%をヒトと共有していると言われています。現在、世界中でルワンダ、ウガンダ、コンゴ民主共和国の森に、約7百数十頭しか生息していない、絶滅危惧種です。1980年代に、内戦や乱獲、人間の病気の伝染、森林の伐採などにより、一時は大幅に数を減らしましたが、世界中の研究者や動物保護団体、地元の人々、政府や観光客の理解と努力によって、現在ゴリラ人口は増加しつつあります。特にルワンダでは、毎年赤ちゃんが生まれ、順調に増えています。



ルワンダ大使館



巢山裕記

ルワンダは、世界でもっとも安全・快適にゴリラを観察できる場所です。現在、ヴィルンガ火山群には13家族が住んでいますが、このうち、7家族に会いに行くことができます。

ゴリラの環境保護のため、ゴリラを観察できる時間等、厳しく制限されています。

ルワンダ大使館ウェブ

ゴリラ・ネーミング・セレモニー

ルワンダでは昔から赤ちゃんに名前を付けることをとても大切にしてきました。歌って踊って村中で新しい仲間誕生を祝う、この伝統的な名付けの儀式をゴリラの赤ちゃんにも行おうと、2005年からはじまったのが「ゴリラ・ネーミング・セレモニー」です。毎年6月に、世界中から研究者や観光客、ドナーたちが集まって、地元ルベンゲリの人々とともに盛大に開催されます。

ゴリラを愛する人たちや団体からたくさんの寄付金が集まり、これらのお金はゴリラの保護はもちろん、ふもとの村の道路や学校の建設やエコツアーの環境整備に使われます。



ルワンダ大使館ウェブ



キニアルワンダ語でのあいさつを練習してみましょう。

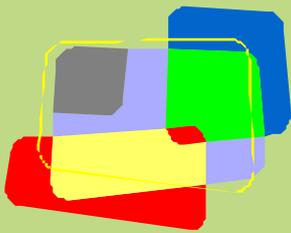
「Amakuru?」(アマクル?: 元気? 変わりはない?) 「Nimeza!」(ニメザ!: 順調! ぱっちり!)

がっちり握手をしたりハグをして、お互いの状況を聞きあうのがルワンダ式のあいさつです。



第2章

へえ～！ルワンダと日本



比べてみよう ルワンダと日本 ～地理・産業編～

① 似ている?違う?ルワンダと日本!

① ルワンダと日本の国土面積は、どちらが広いでしょうか?
ルワンダと比較した日本を、倍数、分数、百分率などで示すとどうなるでしょう。

② 人口密度は、どちらが高いでしょうか?

③ 下の写真は、どちらがルワンダで、どちらが日本でしょうか?

A



B

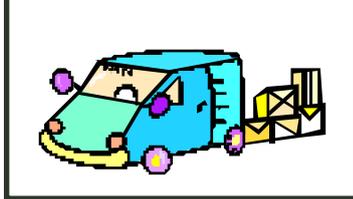


柴山裕記・「日本の棚田100選」ウェブ

④ 以下は、ルワンダと日本の主要農産物、輸入品目、輸出品目を書いてあります。それぞれどちらの国の何に当てはまるか分けてみましょう。

A

自動車などの輸送機械



B

石油などの鉱物性燃料



C

コーヒー



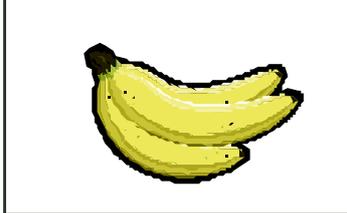
D

日用品・工業部品



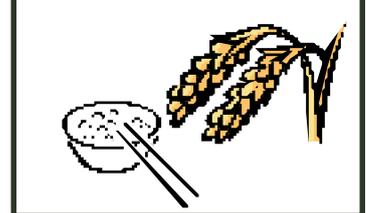
E

バナナ



F

米



「ウルセンダ!」と叫ぶとまるで周りに怒っているようですが、レストランでは店員さんがピリピリと呼ばれる激辛の調味料を持ってきてくれます。ウルセンダとはキニアルワンダ語で唐辛子のことなのです。



- 1 ルワンダの国土面積は26,300Km²、日本は377,887 Km²で、ルワンダは日本のおよそ1/14で、四国の1.4～1.5倍くらいです。
📖 ルワンダ大使館ウェブ
- 2 ルワンダの人口密度は364.68人/ Km²で国別ランキングは10位、日本は337.95人/ Km²で14位、179ヶ国中の10位と14位で両国とも人口密度は似通ったものと言えます。
📖 世界経済のネタ帳ウェブ
- 3 写真Aがルワンダの段々畑、写真Bが日本の棚田です。
ルワンダの国土は緩やかな丘陵が中心で、丘陵の最上部まで段々畑が広がり、丹念に耕作が行われています。日本も国土の約73%を山地が占める山国で、傾斜を利用し段々畑や棚田が作られてきました。両国とも古くからの農業生産文化で培われた勤勉さがあり、ルワンダの丘の上まで耕された段々畑や谷に広がる水田の光景は、ルワンダ人の協調性、計画性、清潔感が伺われます。
- 4 ルワンダの主要農作物、輸入品目、輸出品目
ルワンダの主要農産物はバナナ、主要輸入品目は日用品・工業部品、主要輸出品目はコーヒー、日本の主要農産物は米、主要輸入品目は石油などの鉱物性燃料、主要輸出品目は自動車などの輸送機械です。
中でもコーヒーは、ルワンダでは輸出売り上げの第一位を占める重要な農作物であり、地方の人々にとってもっとも大きな現金収入の源です。また、石油資源がないという点については、日本と事情は似ています。

物資の少ないルワンダ 授業での工夫

ルワンダの主要輸入品目に「日用品」とあるように、内陸国で物資が不足がちで、例えばルワンダ東部のキブンゴにある工業高校での実習授業では、道具や材料にいろんな工夫をしています。日本の学校だと、こういった知恵はなかなか生まれないかもしれません。

ソルガム(モロコシ、高キビ)の茎で作った模型



📖 巢山裕記



ソルガム(モロコシ、高キビ)

📖 ウィキペディア

ピーマンで製図の実習



📖 巢山裕記



良質なコーヒー豆を生産していますが、ルワンダではあまりコーヒーを飲む習慣がありません。その代わりにチャイと呼ばれる温かいミルクティーがよく飲まれています。砂糖をたっぷり入れて、ものすごく甘くして飲むのがルワンダ流です。

比べてみよう ルワンダと日本 ～暮らし編～

① 似ている?違う? ルワンダと日本!

次の文章は、ルワンダの人々の生活や習慣に関係することについて、いくつか書いてあります。

それぞれを読んで、次の3つのどれに当てはまるか振り分けてみて、最後に日本と似ている順に並び替えてみましょう。並び替えたらどんな結果になったかを話し合ってみましょう。

A 日本と似ている B 昔の日本と似ている C 日本とは違う

- 1 人々は、会うたびに挨拶を交わし、知らない人に道を聞かれたらみんな愛想よく対応します。
- 2 食料品店には必ず牛乳やヨーグルトが売っていて、みんながよく飲んでいます。
- 3 国全体のエネルギー消費の80%以上は地域の木燃料や炭などで補われていて、主に家庭で消費されます。
- 4 みんな早起きで、早朝から家の周りを掃除するなど、よく働きます。子どもも早朝から学校に出かけます。
- 5 ルワンダでは、伝染性の病で死亡する人が多くいます。
- 6 ルワンダでも携帯電話がよく使われています。
- 7 ルワンダでの主な交通手段は、マイクロバス、バイクタクシーです。



ルワンダ中央銀行には、かつて日本人の総裁がいた！

服部正也氏は、1918年（大正8年）に現在の三重県四日市市に生まれ、東京帝国大学法学部を卒業後、日本銀行に入行、アメリカ留学を経て、パリで同銀行外国局渉外課長をつとめた後、1964年（昭和39年）にルワンダの中央銀行総裁に就任しました。

在任中は、独立間もないルワンダ初代大統領のもとで経済再建計画を立案し、退任までの6年間で通貨改革、税制・財政改革、産業育成とたくさんの功績を残しました。帰国後は、日本銀行に復職し、後に世界銀行に転職して副総裁まで務め、世界銀行を定年退職後は、国際的な機関からの依頼を受けて各国へ出張するなど、様々な役職を歴任しました。晩年も各国の会議への参加や執筆活動を続け、99年にご逝去されています。

代表的な著書「ルワンダ中央銀行総裁日記」中央公論新社〈中公新書〉（72年）には、ルワンダ内戦前の状況が記されており、現在とは違った視点でルワンダを知れる貴重な図書となっています。



ルワンダ国内ではインターネット環境の整備が急速に進められています。Eメールやチャット、SNSなどはルワンダでも若者のコミュニケーション手段として定着しつつあり、街なかのインターネットカフェは大賑わいです。



1 ルワンダの人々はみんな親切で素朴です。中には道を尋ねると一緒について来てくれる人もいます。

2 ルワンダでは、どこの食料品店にも牛乳やヨーグルトが売っていて、みんなよく飲んでます。かつて牛が社会的地位を示すものだったこともあり、人々は牛を肉として食べるより、牛乳やヨーグルトとして飲むことに牛への親しみを抱いています。また、ルワンダでは、結婚のときに(生きている)牛を丸ごと一頭、新郎側から新婦側へ贈るのが慣習とのことです。しかし、最近では土地事情などで牛を贈られても困るという方も多いらしく、「これで牛を買ってください」という意味を込めて、お金を渡すそうです。それだけルワンダでは牛が「富」の象徴とされているのです。



3 電気の普及率は低く、電気ネットワークは主に首都キガリのみに整備され、人口のたった5%の人々だけが電気を享受しています。しかし、独占企業のエレクトロガス社でさえ、この国内需要を満たすことができないのが現状です。

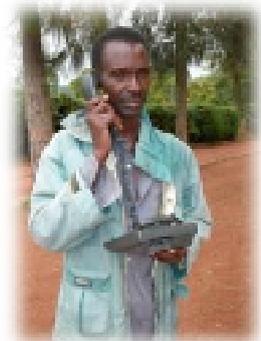


ルワンダの森林資源は枯渇していて、エネルギー、その他の経済活動両方をカバーすることは困難です。政府は、現在の資源を有効に活用し、伝統的なエネルギー源に代わる別の選択肢を推進しています。太陽光や風力を使用した小規模発電所(特に田舎)、地熱発電、キヴ湖の泥炭または埋蔵量にすると550億立方メートルと概算されるメタンガスの使用などがそれです。

4 ルワンダの人々は朝5時ごろから起き出して庭先を掃き、家の中を清掃します。子どもたちも朝早く起きて清掃や勉強をします。ルワンダでは、家の周囲の清掃だけでなく主要道路周辺や街全体もきれいに保たれていて、政策である月1回の「国民共同作業の日」の実施により、以前から清潔好きだった人々が、なお一層徹底してきました。ルワンダの地方の住宅は簡素で中に入ると暗いですが、小奇麗にしている家が多く、表からの小道の両側や庭先に花を植えてあります。また、写真のように生垣の中にはチリーつありません。家の中もちろんきれいです。



5 ルワンダの死亡要因は、2006年はルワンダ保健省によると、マラリア、呼吸器感染、腸内寄生虫が挙げられています。ただし、それほど死亡率は高くなく、衛生面の知識があり情報も伝わっています。



また、清潔好きな習慣もあり、水たまりを作らないようにしたり、草を刈ったり、予防策が徹底しています。

6 ルワンダでも、日本と同じように携帯電話やインターネットが普及しており、コミュニケーションの手段は電話やメールです。右の写真は、携帯(?) 公衆電話。個人で持っている電話はもちろん、日本と同じようなちゃんとした(!?) 携帯電話もあります。



7 ルワンダの主な交通手段は、マイクロバスとバイクタクシーです。地方へ行くと、自転車タクシーもありますが、坂が多いので、途中で降りて運転手と一緒に自転車を押すこともしばしば。自転車は、荷物を運ぶ時も使われます。

比べてみようルワンダと日本 ～歴史編～

① ルワンダの歴史から、日本の歴史と似ているところや違っているところを探そう。似ていると思うところは、つなげて、広げて、できるだけたくさん出してみよう。

① 次の年表を見て、気づいたこと、思ったことを出し合ってみましょう。

その頃日本では…

1964年	東京オリンピック開催	1962年
1970年	日本万国博覧会開催	
1971年	沖縄返還調印	
1978年	成田空港開港	
1989年	昭和天皇崩御	
1991年	雲仙普賢岳噴火 バブル経済の崩壊	1990年
1992年	日本人初の宇宙飛行士	
1994年	関西空港開港 自衛隊ルワンダPKO派遣	1994年
1995年	阪神・淡路大震災	
1998年	長野冬季オリンピック	
2005年	愛知万博開催	2003年

王国時代

19世紀になって「ツチ」「フツ」という「職業階級」が表れました。王に仕える支配階級がツチ、それ以外の者はフツ。王の地位は絶対で、家畜・土地・軍事の三つのチーフを通じて統治される極めて中央集権的な王国でした。チーフは慣習的にツチが務めました。ツチとフツの境界線は絶対的なものではなく、一般の人々は、同じ土地に住み、共生していました。一方、建築、芸能、工芸など、現代のルワンダ文化の基礎となる固有の文化が、この時代に形成されました。

植民地時代～独立

宗主国のベルギーによって、以前から存在していた社会的階級が不平等な「民族」に制度化されました。牛の所有数や外見で「民族」が決定されたのです。宗主国は自国の利益のためにツチ、フツの「民族」を対立させ、少数派であるツチを優遇しました。しかし、独立の機運が高まってくると今度は多数派のフツと手を組んだため、流血や何千人もの国外強制退去という結果を招きました。

ベルギーがルワンダの独立を承認

独立後～ジェノサイド(大虐殺)

独立後のフツ政権は一党独裁体制を制度化し、統治手段として組織的にツチの排除を行いました。これは30年以上にわたって何十万人ものルワンダ難民を生み出すこととなりました。

ルワンダ内戦へと突入

大虐殺終結

戦争の平和的解決を強いられた政権は、体制維持のためにツチと穏健派フツの組織的排除を計画し、これは1994年の大虐殺へとつながりました。この大虐殺は、国中を混乱に巻き込み、3ヶ月の間に数十万人もの死者を出す大惨事となりました。

ジェノサイド後～現在

国民投票によって新憲法を採択 ポール・カガメ新政権が誕生

現在も依然として不安定な要素が残ってはいますが、10年以上、平和と着実な再建と開発が続いています。

② 左はルワンダの国旗で、青色は幸福と平和を、黄色は経済の発展を、緑色は繁栄の希望を象徴し、右上に輝く太陽は、啓蒙を表しています。

そして、右にあるのは国章です。勤労による発展を象徴する緑の縄の輪の中に、ルワンダ国を象徴するモチーフが描かれていますが、それぞれ何が描かれて、そこにルワンダの人々のどんな願いがこめられているか、ここまで知ったことや感じたことから想像してみましょう。





ルワンダの歴史

● 王国時代

ルワンダは元々農業国で、国民の大半を占める農民は共通の言語と文化を持ち、民族意識は希薄でした。よく知られる、「ツチ」「フツ」という「職業階級」が顕著に表れ出したのは19世紀になってからで、王に仕える支配階級がツチ、それ以外の者はフツと区別されていました。ツチは富と権力の象徴として牛を所有していました。王の地位は絶対で、家畜・土地・軍事の三つのチーフを通じて統治される極めて中央集権的な王国でした。チーフは慣習的にツチが務めましたが、裕福なフツの農民が政治力を持ちツチになったり、貧乏なツチがフツの農民と結婚したりすることもあり、その境界線は絶対的なものではありませんでした。一般の人々は、同じ土地に住み、大農と小作人のような主従制度が社会全体に浸透していて、相互利益の関係を築いて共生していました。一方、建築、芸能、工芸など、現代のルワンダ文化の基礎となる固有の文化が、この時代に形成されました。



● 植民地時代～独立

植民地時代の特徴は、宗主国のベルギーによって以前から存在していた社会的階級が不平等な「民族」に制度化されたことに象徴されます。宗主国によって、牛の所有数や外見で「民族」が決定されたのです。宗主国は自国の利益のためにツチ、フツの「民族」を対立させ、少数派であるツチを優遇しました。

独立の機運が高まってくると今度は、それまで優遇してきた貴族階級のツチから、多数派のフツへと同盟を移行し、これは流血や何千人もの人々の国外強制退去という結果を招きました。混沌の中、1962年ベルギーはルワンダの独立を承認しました。



● 独立後～ジェノサイド(大虐殺)

独立後のフツ政権は一党独裁体制を制度化し、統治手段として組織的にツチの排除を行ないました。これは30年以上にわたって何十万人ものルワンダ難民を生み出すこととなりました。1990年には国外追放となっていたツチがルワンダ愛国戦線 (RPF) を組織、周辺国へ退去させられていた人々の本国強制送還を指導し、ルワンダ内戦へと突入。戦争の平和的解決を強いられた政権は、体制維持のためにツチと穏健派フツの組織的排除を計画し、これは元陸軍と市民兵 (インター・ハムウエ) が起こした有名な1994年の大虐殺へとつながりました。この大虐殺は、国中を混乱に巻き込み、3ヶ月の間に数十万人もの死者を出す大惨事となりました。

● ジェノサイド後～現在

1994年7月、国連介入により大虐殺が終結。RPFが国家を統一すべく暫定政府を設立しました。2003年にはルワンダは国民投票によって新憲法を採択。複数党候補者による大統領と立法府の選挙が行なわれ、ポール・カガメ新政権が誕生しました。現在も依然として元陸軍と市民兵が残留しているため不安定な要素が残っていますが、ルワンダではこれまで10年以上、平和と着実な再建と開発が続いています。

あまり知られていない事実ですが、最近の歴史的背景に反して、ルワンダは犯罪や平和妨害に対する法的規範を持った特筆すべき安全な国であるとして、世界銀行からもグッドガバナンスの模範国と高く評価されています。



平和への願い ～ルワンダと日本の憲法～

日本は戦争という過去の苦い教訓から、平和主義を憲法9条 (戦争の放棄など) で規定しています。

ルワンダでも2003年に国民投票によって制定された新憲法で、ジェノサイド後の現実を反映し、第9条では基本的な重要事項に基づき構成されています。特に第4項では、あらゆる意思決定機関におけるポストの最低30%が女性によって確保されることを明記するなど、権力の分配のメカニズムが確実になっています。これにより2008年の下院選では、世界で初めて女性議員が過半数を占め、全体の56%となって世界のトップとなりました。ほかにも、若者や障がい者にも議席が割り当てられています。

一方、日本の女性議員は9.4%で世界では104位、主要先進国の中では最低水準で、平和への新たな取り組みが期待されるところです。



シンポジウムでルワンダ全土の女性たちの連携を報告するアレス・カレケジ弁護士



ちよつとブレイク



アフリカ大陸初、ルワンダでカップ・オブ・エクセレンス開催

カップ・オブ・エクセレンス(Cup of Excellence)は、品質向上に熱心なブラジルの生産者グループが、彼らの最高のコーヒーが認知される為の方策として始められ、その年に収穫されたコーヒーの中から最高品質(トップ・オブ・トップ)のものに与えられる名誉ある称号です。国内予選を勝ち抜き、国際審査員の厳格なカップテストにより評価された、全生産量の数%にも満たないほんの僅かなコーヒーだけが、この称号を授与されます。格式高い名誉ある称号を与えられるコーヒーの数は、出品されるコーヒーの品質のレベル次第で決まります。条件を満たす品質基準は非常に厳しいので、名誉を勝ち得るのはほんの一握りのコーヒーです。



カップ・オブ・エクセレンスでルワンダの農園がオークション2位受賞！



2008年8月アフリカ大陸で最初のカップ・オブ・エクセレンスがルワンダで開催され、ルワンダの『ファコルリンドゥ農園』が堂々2位を受賞したのをはじめ、複数の農園がオークションで上位に入賞しました。ルワンダでは、2006年から国内で始まった「ルワンダ・カップング・コンテスト」により、アメリカ・ヨーロッパなどの世界中のスペシャルティコーヒー業者から高い評価を受けていましたが、世界における最高品質のコーヒー産出国の一つであることをここでも証明しました。

[ワールドコーヒービーンズ倶楽部ウェブ](#)

コーヒー生産のパラダイス ルワンダ ～最適な環境と上質な労働力～

ルワンダは肥沃な火山灰質の土壌、年間約2,000ミリの豊富な雨量、昼夜の寒暖差、そして、標高1500～2000mの高地栽培と、珈琲栽培に適した自然環境にあります。また、大規模なコーヒー農場ではなく、各農家で手塩にかけて育て、手で収穫、完全洗浄、天日乾燥、それから一粒一粒を手で選別と、それらの丁寧な作業が、ルワンダの大粒で美しいグリーンビーンズ(生豆)を生み出しています。



こういった上質な労働力は、古くからの農業生産文化によって培われており、ルワンダは国土面積が小さい上に、丘の国で経済も地下資源に依存できなかったため、人々は昔から男も女も土地を耕すこと、つまり働くことが当たり前でした。

[ルワンダ大使館](#)

ルワンダの国章

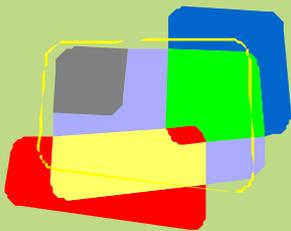


国章に描かれたモチーフは、《太陽》は透明性と啓蒙を、《アワの穂》と《コーヒーの木》は豊かな農業生産を、《バスケット》は助け合い・結束・分かち合いのルワンダの文化を、《青い車輪》は科学・工業・産業の発展を、左右の盾は愛国心と国家主権の防衛を象徴しています。黄色の帯、黒で記されている文字は、円の中が《REPUBLICA Y 'U RWANDA》(ルワンダ共和国)、縄の結び目の下が、モットーである《UBUMWE, UMURIMO, GUKUNDA IGIHUGU》(団結、労働、愛国心)です。



第3章

一緒に考えよう！こんな課題



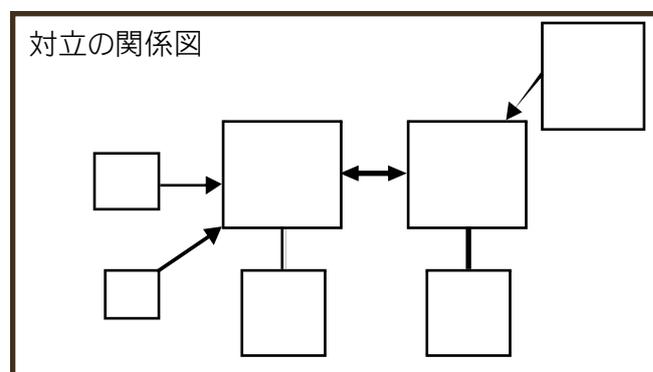
ルワンダ内戦を考えよう その1

① ルワンダの内戦はどうして起こったのか考えてみよう。



① ルワンダの内戦で恐ろしいのは、顔見知りのご近所同士がある日突然、敵となってしまったことです。そんな悲劇がなぜ起こったのか、P.25の参考資料を読んでみましょう。

② 次ページに参考資料に登場した人物、民族、集団組織、国などのカードがあります。模造紙など、適当な大きさの紙を用意し、その上にカードを配置して、ルワンダ内戦における対立の関係図を作りましょう。それぞれのカードの関係について、以下の図のように対立ならば「⇄」、同盟関係ならば「=」、後方支援なら「→」など、必要に応じて自分たちで記号を考え、カードを囲む図の大小で影響力の大きさや、関係の強さを線の太さで表しましょう。



③ 何人かで配役を決め、それぞれができ上がった対立の関係図どおりに位置し、その場で実態版をつくってみましょう。その際、配役相互の関係に従って、色の違う紙テープなどで結びましょう。配役のない人は、周囲で様子を見ます。

④ それぞれの配役に、その状況について短く説明してもらい、変化の第一歩を踏み出すとしたら、どこに近づくか(または離れるか)動いてもらいましょう。

⑤ やってみて、または周囲で見ていると感じたこと、気づいたことを共有しましょう。最後に、自分たちの身近に似たような関係が存在していないか、存在しているならどんな変化の第一歩を踏み出せるかも考えてみましょう。

→P.23につづく 解説はP.24



アフリカの歴史や地理について日本の学校ではあまり取り上げられません。しかしルワンダの生徒たちは日本に「ホンシュウ、ホッカイドー、シコク、キューシュー」があることや、「ヒロシマ、ナガサキ」について学校で習います。

【対立の関係図カード】



フツ



アフリカ中央部のブルンジとルワンダに居住する3つの民族集団の中で最も大きな集団。ルワンダ人の80%以上を占める。

ツチ



アフリカ中央部のブルンジとルワンダに居住する3つの民族集団の一つ。少数派であったが、王室を支えていたために植民地支配の際に支配階級となった。

トゥワ



中部アフリカ最古の「ピグミー」と呼ばれる狩猟採集民。マイノリティとして存在し、政治的にも弱い立場。

ルワンダ愛国戦線(RPF)



ツチ系難民によって組織されたルワンダの旧反政府勢力。ハビヤリマナ政権に対する反政府運動を活性化させる。現在では、ルワンダ大統領ポール・カガメ率いる政党。

インテラハムウェ



ルワンダ大虐殺を扇動、実行した当時の与党開発国民革命運動(MRND)のフツ系過激派民兵組織。旧ルワンダ政府軍(フツ軍)とほぼ全ての作戦行動を共同で行っている。

ポール・カガメ



1990年10月、ルワンダ愛国戦線(RPF)がルワンダ北部を制圧、その後RPF最高司令官となる。2003年にルワンダ大統領に就任。

パステール・ビジムング



1994年7月にルワンダ愛国戦線(RPF)がツチ系の保護を名目に全土を完全制圧した後、大統領就任。当時の副大統領がポール・カガメ。

ジュベナール・ハビヤリマナ



1973年にクーデターを起こしてルワンダ第3代大統領就任、独裁体制を築いて反ツチ傾向を強めた。

フランス



フランス政府が虐殺側に立ったフツの援助を組織的に行い、事態の鎮圧を遅らせたという指摘もある。

ベルギー



第1次世界大戦以降、ルワンダを植民地としていた。1962年のルワンダ独立の前にツチとの関係が悪化し、国連からの関係改善勧告を無視してフツによる体制転覆を支援した。

ドイツ



第一次世界大戦までルワンダを植民地としていた。

アメリカ合衆国



ポール・カガメがRPF最高司令官となる前に、アメリカ陸軍指揮幕僚大学で彼に軍事訓練をするなど、早くからRPFに接近していた。

日本



1994年9月21日～12月28日、ルワンダ難民支援のため、国際平和協力法に基づき、自衛隊を派遣した。

国際連合



ルワンダ大虐殺では、直前のソマリア内戦介入の失敗で、二の舞を恐れて慎重になり、国際的な対処が遅れて被害を拡大したという見方が強い(仮に国連軍が展開されていればツチの死者の何割かは救えたと言われる)。

ルワンダ内戦を考えよう その2 ～対立から学ぼう～

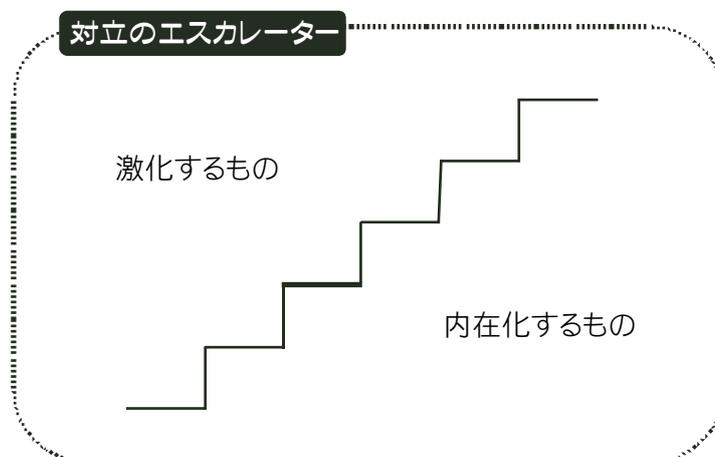
① 対立が起きたとき、それを激化させる、または内在化させる原因となるものについて考えよう。

① 対立が激化、または内在化する原因となる言葉、声の調子、表情や態度など、思いつくことを出来るだけたくさん出し合って記録しましょう。
(内在化とは、感情は高ぶっていても沈黙したり、自分を責めたり、自分の中に溜め込んでしまうことです。)

② 出し合った原因について、対立を激化させるものか、内在化させるものかに分け、それぞれの感情と行動が変化するプロセスを階段で表した「対立のエスカレーター」に表しましょう。

【例】

激化した対立	内在化する対立
・態度が荒れる	・あきらめる ・がまんする



③ 対立のエスカレーターに表されたものが、P.22のカードで作った「ルワンダ内戦の関係図」の中に当てはまるものがあるかどうか考え、あれば関係図の中の当てはまりそうな場所書き込むか、カードにして貼り付けましょう。

④ ルワンダ内戦の関係図の中に配役されて入ってみて、また、「対立のエスカレーター」を書いてみて感じた、対立の激化や内在化を緩和させるために大切なものは何か出し合い、出てきたことがどんな立場の人の、どの段階で重要なのかを考えましょう。

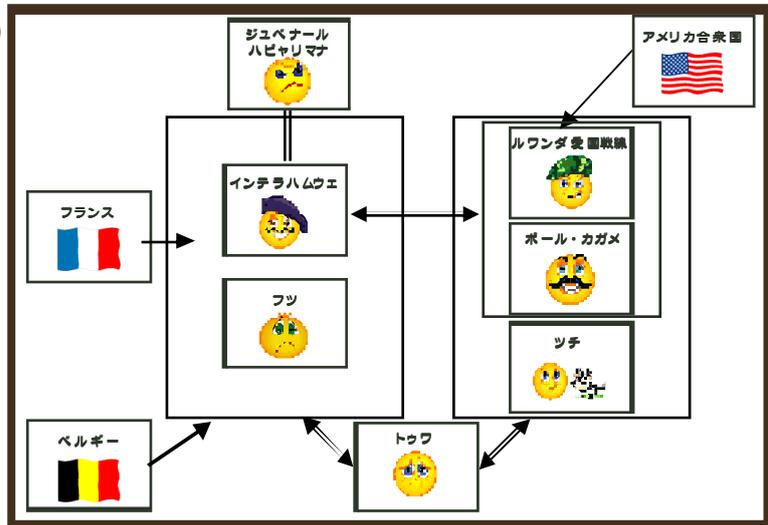


P.21 ルワンダ内戦における対立の関係図

「ルワンダ内戦における対立の関係図を作ろう」では、対立にある関係について、その全体像を捉え現状と変化に向けた一歩を踏み出したときの違いについて体験を通して理解し、変化を起こす意欲につながります。

③では、一歩動くことによってテープが貼ったり緩んだりして、心理的变化を体験することになります。変化の主体になる葛藤と行動のメリットを実感できるでしょう。

対立の関係図(例)



対立の激化と内在化 ②

● 対立を激化させるもの

決め付ける、昔の対立をむし返す、一般化する(いつもあなたは…)、話をすりかえる、軽くあしらう、いやみ(皮肉)を言う、圧倒する(ののしる、脅す)、変えることのできない属性などを悪く言う、差別する、全面的に否定する

● 対立を内在させるもの

自己否定感(自信がない、わたしにも悪いところがあるのだから…)、信頼関係を築くことに対する信頼のなさ(親に心配かけたくない、言ってもムダだから、穏便に)、立場(上下関係)や利害を先読みする(顔を立てて、体面を傷つけないよう…)、閉そく感、不文律、自分の思い(周りへの思い込み)に圧倒される(言わなくても察する)、二重拘束(外的抑圧)に気づかない(あるべき姿の無意識の取り込み)、批判的思考力の欠如

解決のための実践的なアクティビティ

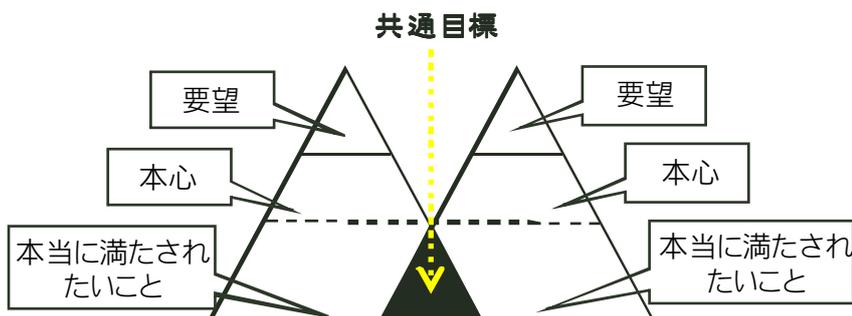
④までのアクティビティを終えたあと、自分自身が対立を激化・内在化させないスキルを学んでいくことを伝えておき、次のアクティビティにつなげて良い。

・カードの配役のように対立関係にある3つの違う立場を想定し、「変化を望む者」「変化を望まない者」「解決を真に願う者」と、それぞれの人数が均等になるグループになって、自分たちの「要望」と「本心」を確認し合う。

・次に、3つの立場の3人となるようにグループを作り、記録者と観察者をつけて話し合いを行う。

・各グループで、観察・記録者のフィードバックを基にふり返りをする。

・全体に共有したあと、以下の「本当に満たされたいこと(共通の目標)」を見出すために必要なことを考える。



妥協ではなく、共通目標を見出す努力
＝深く掘り下げて理解する



ルワンダ紛争



ルワンダ紛争は、アフリカ中央部にあるルワンダにおいて、1990年から1994年にかけて、フツ系の政府軍及びインテラハムウェとツチ系のルワンダ愛国戦線 (Rwandan Patriotic Front, RPF)との間で行われた武力衝突です。ルワンダ内戦と、和平協定後も続いたツチとフツ等の対立、虐殺を指す場合もあります。

◎ 第一次世界大戦以降

ルワンダはドイツの植民地からベルギーの植民地となった。植民地下で少数派であるツチを君主及び首長等の支配層とする間接支配体制が築かれ、多数派のフツとごく少数のトゥワはより差別を受けるようになった。

◎ 1962年 独立前

ツチとベルギー当局との関係が悪化し、ベルギー当局は国連からの関係改善の勧告を無視し、社会革命としてフツによる体制転覆を支援した。ツチは報復を恐れて近隣諸国に脱出した。

◎ 1962年

ベルギーが公式にルワンダ独立を許可し、それに伴って、教育や警察・軍隊への雇用、政治参加など、生活のあらゆる面での「民族化」が行われ、以降は組織的な民族浄化と追放が繰り返された。

◎ 1990年10月

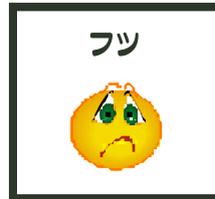
国外に脱出したツチ系難民で組織されたルワンダ愛国戦線 (RPF) がルワンダ北部に侵攻し、内戦が勃発。

◎ 1994年4月6日

フツのジュベナール・ハビヤリマナ大統領とブルンジのシブリアン・ンタリヤミラ大統領を乗せた飛行機が何者か(「フツの過激派による犯行」と「ツチの犯行」の二説有り)に撃墜されたことに端を発して、フツによるツチの大量虐殺(ジェノサイド)が始まり、一説には約100日間で国民の10人に1人、少なくとも80万 - 100万人の虐殺が行われたとされている。この紛争では、ラジオ放送がツチへの敵愾心(てきがいしん)を煽る放送を流したことが、一般人までもが虐殺に荷担することにつながった。

◎ 1994年7月

1994年7月にRPFがツチ系の保護を名目に全土を完全制圧し、フツのパステール・ビジムングを大統領、ツチのポール・カガメを副大統領(現大統領)として新政権が発足。紛争は終結した。





ルワンダ紛争

ルワンダ紛争は、アフリカ中央部にあるルワンダにおいて、1990年から1994年にかけて、フツ系の政府軍及びインテラハムウェ(ルワンダ大虐殺を扇動し、実行した当時の与党開発国民革命運動〔MRND〕のフツ系過激派民兵組織)とツチ系のルワンダ愛国戦線(Rwandan Patriotic Front, RPF)との間で行われた武力衝突、ルワンダ内戦と、和平協定後も続いたツチとフツ等の対立、虐殺を指す場合もある。

ルワンダは第一次世界大戦まではドイツ、第一次世界大戦以降はベルギーの植民地であったが、植民地下で少数派であるツチを君主及び首長等の支配層とする間接支配体制が築かれ、多数派のフツとごく少数のトゥワはより差別を受けるようになった。1962年の独立の前にツチとベルギー当局との関係が悪化し、ベルギー当局は国連からの関係改善の勧告を無視し、社会革命としてフツによる体制転覆を支援した。

ツチは報復を恐れて近隣諸国に脱出したが、1973年にジュベナール・ハビヤリマナがクーデターを起こすと、当初は和解策をとったものの独裁批判が強まると反ツチ傾向を強めた。ウガンダのツチ系難民がルワンダ愛国戦線(RPF)を組織して、ウガンダを拠点にフツ族のハビヤリマナ政権に対する反政府運動を活発化させることになる。

1990年10月にはRPFがルワンダ北部に侵攻し、内戦が勃発。

1993年8月にRPFの猛攻と国際世論の高まりにより、アルーシャ協定が結ばれ、和平合意に至ったものの、1994年4月6日にフツのジュベナール・ハビヤリマナ大統領とブルンジのシプリアン・ンタリヤミラ大統領を乗せた飛行機が何者か(「フツの過激派による犯行」と「ツチの犯行」の二説有り)に撃墜されたことに端を発して、フツによるツチの大量虐殺(ジェノサイド)が始まり、一説には約100日間で国民の10人に1人、少なくとも80万 - 100万人の虐殺が行われたとされている。

1994年7月にRPFがツチ系の保護を名目に全土を完全制圧し、フツのパステール・ビジムングを大統領、ツチのポール・カガメを副大統領(現大統領)として新政権が発足。紛争は終結した。

ジェノサイド事件については、直前のソマリア内戦の介入で失敗した国際連合(とその中核となるアメリカ合衆国)が「ソマリアの二の舞」になることを恐れるあまり慎重な態度を取り、結果的に国際的な対処が遅れ被害を拡大したという見方が強い(仮に国連軍が展開されていればツチの死者の何割かは救えたと言われる)。

この紛争では、ラジオ放送がツチへの敵愾心(てきがいしん)を煽る放送を流したことが、一般人までもが虐殺に荷担することにつながった。

あまり指摘されないが、フランス政府が、虐殺側に立ったフツの援助を組織的に行っていた(フランス軍の展開、武器援助等)事など、冷戦時代からの名残を引きずった西欧諸国の思惑がさらに事態の鎮圧を遅らせていたという面もある(その一方で、アメリカは早くからRPFに接近しており、内戦が本格化する以前からカガメと接触していた)。なお、ルワンダ政府は、後にカガメを戦争犯罪者として告発したことなどを理由にフランスと国交断絶している。

『ツチ』対『フツ』の形成

フツとツチは、元々は同じ言語を使い、農耕民族であるか遊牧民族であるかという違いでしかなく、貧富の差がそれぞれの民族を形成するなど両者の境界は曖昧であった。遊牧業が主な生業であったツチは、牛を多数所有するなど比較的豊かであった。しかし、ベルギー人をはじめとする白人による植民地支配が始まると、鼻の大きさや肌の色などを基準に境界が作られた。ツチは「高貴(ハム系あるいはナイル系)」であり、対するフツなどは「野蛮」とであるという神話・人種概念を流布(ハム仮説)し、ツチとフツは大きく対立し始めた。1948年に188万7千人だった人口が1992年には750万人と4倍になり、土地不足や土壌の疲弊が起こり、農業が主だったフツには貧困が蔓延するようになった。

植民地支配の道具としてツチの支配が形成され、1930年代にはIDカードの導入により固定化が図られ、フツとトゥワはあらゆる面で差別を受けた。植民地解放の気運が高まるとベルギー当局とカトリック教会は多数派のフツ側に立場を逆転させたが、現地のカトリック教会の神父・修道者に犠牲者が出ており、教区全員を虐殺された教会もある。



参考資料

ガチャチャ裁判 ～ルワンダの国民和解～

ルワンダは1990年から1994年に激しい内戦とジェノサイドを経験しました。とりわけ1994年4月～7月にかけてのジェノサイドは、国民の約1割が虐殺されるという想像を絶する事件でした。この恐るべき事件を受けて、どのようにその傷を克服し、共存への道を開くのかという国民和解をめぐる問題が、内戦後ルワンダで、また国際社会で頻りに語られることになりました。

ルワンダの国民和解という文脈でとりわけ注目を浴びたのが裁判です。ジェノサイドに対する国際社会の強い関心から、内戦終結後時間をおかずして、国連安全保障理事会のイニシアティブで「ルワンダ国際刑事裁判所」(International Criminal Tribunal for Rwanda: ICTR) がタンザニアのアルーシャに設置されました。国内の通常の司法プロセスでもジェノサイドで重要な役割を果たした容疑者が裁かれましたが、犯罪に荷担したとされる人々の数がルワンダの通常の司法制度の処理能力を大幅に超えていたため、「ガチャチャ」(Gacaca)と呼ばれる新たな制度が導入されました。

ガチャチャに対する国際的関心の高さの一つに、現地社会に根ざした問題解決法だと考えられていることがあります。ガチャチャとは「芝生」あるいは「芝生の裁判」を意味するルワンダ語で、もともとは地域共同体における私的なもめ事を裁くシステムを指していて、共同体の構成員が集まって芝生に腰を下ろし、直接参加型の討議によってそれを処理したことからこの名がつけられました。従来は基本的に民事事件が扱われていましたが、現在のガチャチャは虐殺の容疑者を裁く刑事裁判であり、人々にはローカルレベルでジェノサイドに荷担した人々の罪状を確定しようという「国家の事業」と認識されています。



農村部のガチャチャ法廷

また、ガチャチャでは自らの罪を認めれば大幅な減刑がなされ、拘禁の代替措置として公益労働が導入されることが法で定められていて、すなわち、罪を認めることで社会復帰を許可する仕組みであり、旧政権に煽動された罪人を再統合するための条件として機能しています。

一方で、普通の農民が殺人罪を裁くことから国際的な人権基準と食い違いがあることや、現政権の中核を占めるルワンダ愛国戦線(RPF)が内戦中に犯した人権侵害行為を裁くメカニズムを持たないという問題もありますが、総じて肯定的に評価されているのは、個々の裁判の妥当性と治安の維持と経済の安定に一応の成功を収めた現政権を国民が一定評価していることが考えられます。

ICTRの設置に際しても、ガチャチャ導入に際しても、国民和解の促進がその目的に掲げられました。ここでは、正義と和解の関係が問われています。内戦や独裁政権下で深刻な人権侵害が大量に生じたあとで、それをいかに克服するのかという問題は、移行期正義(transitional justice)の問題として、今日世界的な関心を集めています。ICTRやガチャチャをめぐるルワンダの経験は、その中で最も注目を浴びている事例の一つです。



ガチャチャ法廷で罪状を否認する被告



和解への取り組み

家造りプロジェクト

民族対立で約80万人が虐殺されたといわれるアフリカのルワンダ。今、加害者が破壊した被害者の家を再建することで「和解」を促す取り組みが進められています。加害者に罪を自覚させ、懲罰でなく被害者へ現実的な償いをさせて両者の対話を行う試みは従来になく、人々の負った深い傷の修復が進むか、国の内外から注目されています。多数者フツ人の急進派民兵らが、ツチ人や穏健派フツ人を虐殺したのは1994年。発生から15年経ちますが、殺戮の記憶や身体的な傷を抱えて苦しむ被害者は後を絶たず、加害者の責任追及を厳しく求める声も少なくありません。また、百万人に上ると言われる虐殺の容疑者はその数があまりに多すぎるため裁判がなかなか進まず、国の再建の足かせともなってきました。そこで政府は地域の揉め事を解決する村の慣習的な“裁判”「ガチャチャ」を活用して裁きを進め、真実を告白した加害者には懲役ではなく労働奉仕刑を科して減刑し社会復帰を図っていくことにしました。

この労働奉仕刑のプログラムの一つとして注目されているのが「家造りプロジェクト」です。現地NGO・REACHが発案し、2007年から実行に移されています。家造りの作業を通して双方が向き合う中で、加害者を「赦す(ゆるす)」という被害者も現れました。加害者と被害者が「和解」に向けて歩み寄ることはできるのか。真実を明かそうとする“ガチャチャ”の取組みと、労働奉仕刑の受け皿として始まった「家造りプロジェクト」は、多くの注目を集めています。



佐々木さんを支援する会ウェブサイト

アガセチェ平和バスケット

ガチャチャ裁判などが各地で継続して行われている中、2003年から2008年の間に160人近くの証人、目撃者、残存者が殺されているという政府発表のデータがあり、ここからは加害者と被害者との和解はそう簡単ではないことが見えてきます。

その一方で、両者が一緒に住宅地に住み、新しいコミュニティをつくらうとする試みや、なんらかの共同作業を通じて痛みを分かち合い、少しずつ和解のプロセスに至るというケースもあります。

例えば、ルワンダの伝統的なバスケット「アガセチェ」は、主として女性によって作られています。1994年のルワンダのジェノサイドの後、女性たちは、異なるグループの人たちと会った時、編み物を通じて女性として彼らの問題について話し合い、共有し、ジェノサイドで夫を失ったツチの女性と、夫がジェノサイド中に犯した罪のために牢獄に入れられて夫を失ったフツの女性たちは、お互いに多くの共通の問題を抱えていることに気付いていきます。中でも大きかったのは、家庭の大黒柱の男性を失った結果として極度の貧困状態に陥ったことで、こうしてバスケットの編み物が、女性たちが集まるきっかけとなり、双方のグループ出身の女性たちが一緒に働くようになったことから平和と統合を促進する道具として認識され、これが、アガセチェ平和バスケットとも呼ばれるようになっていきます。



巢山裕記



ミトコリ・ブログ



フォトギャラリー

～ルワンダ 日常の風景～



お母さんにお風呂に入れてもらう子ども「気持ちい〜♪」



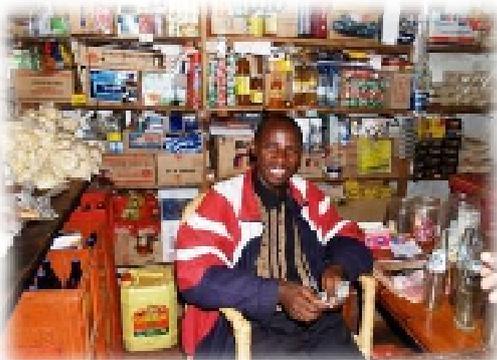
ルワンダの子どもたち「はいっチーズ」



やっぱりサッカーは大人気



空手も負けてません。押忍っ



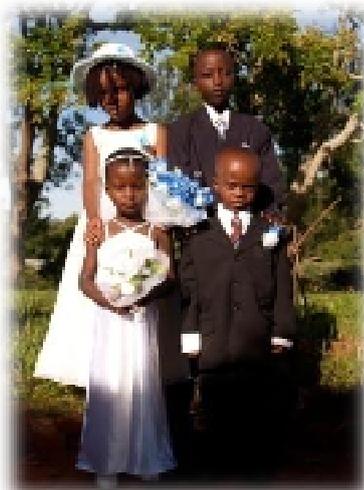
ルワンダのコンビニです



バイクタクシー



「運だめしに、宝くじはいかが？」



結婚式参列でちょっとおめかし



茶畑



イモ、イモ、イモ



バナナ



野菜売り場



元気よく、イチニツ、イチニツ！



みんなの遊び場です



子どもはどここの国でもかわいいですネ



「ルワンダってこんな国」ふりかえりシート

位置は？地形は？
気候は？



こんな所がある



人々はこんな生活
をしてる



ルワンダってこんな国



ルワンダの素敵なおとこ



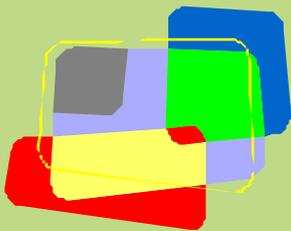
ルワンダから学んだこと





第4章

そして未来へ



世界を変えるスピーチ

① 地球は今、様々な課題を抱えています。
あなたが今、一番気になる課題は何ですか？

- ① みなさんは、「グローバルイシュー(地球的課題)」ということばを聞いたことがありますか？
原因が特定の地域だけでなく地球全体に関係している、深刻化すれば地球全体に影響がある、解決には地球全体の長期的な協力が必要である…そんな課題を「グローバルイシュー」と呼びます。
具体的にどんな課題があると思いますか？ グループでできるだけたくさん模造紙に書き出してみましょう。
- ② それぞれのグループが書き出した課題を発表し、みんなで共有しましょう。
- ③ 今みんなで出し合った課題の中で、あなたが一番気になる課題は何ですか？
グループで話し合って、1つ選んでみましょう。
また、その課題について世界はどういう状況なのか、日本はどういう状況なのか、調べてみましょう。
- ④ さて、グループで選んだ課題を解決するための会議が開催されることになり、5分間のスピーチをすることになりました。なぜその課題に関心があるのか、その課題についてどんなことを思っているのか、その課題を解決するためにどうすればいいと思うか…などを盛り込んで、スピーチの原稿をグループのみんなで作ってきましょう。
- ⑤ では、会議の会場を想定して、実際にスピーチをしてみましょう。
- ⑥ ここに、「伝説のスピーチ」と言われている12歳の少女のスピーチがあります。この少女は、カナダに住む日系4世のセヴァン・カリス＝スズキ。遊ぶことが大好きなふつうの女の子です。そのふつうの女の子が、世界中のおとなたちを感動させたスピーチです。聞いてみてください。(P.35～37)
- ⑦ スピーチをしてみてどうでしたか？
他のグループのスピーチや「伝説のスピーチ」を聞いてどんなことを感じましたか？
感想を話し合ってみましょう。



グローバルイシュー(地球的課題)と持続可能な社会

「グローバルイシュー」には様々な課題が含まれますが、大きく「人権」と「環境」の2つに分けられます。

例えば、1992年ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された地球サミットで採択された、21世紀に向けた持続可能な開発を実現するための行動計画『アジェンダ21』では、貧困、人口問題、健康と環境、人間居住、大気保全、森林減少、砂漠と干ばつ、生物多様性の保全などの課題をとりあげています。また、2000年の国連ミレニアム・サミットで採択された**ミレニアム開発目標**では、2015年までに達成すべき目標として下記の8つの項目を掲げ、189の加盟国が公約しました。

それらに掲げられているそれぞれの課題は、「貧困の問題が紛争につながる」「紛争がさらなる貧困を生み出す」「紛争は最大の環境破壊である」「環境が破壊されれば、ますます貧困になる」といったようにつながっており、原因にも結果にもなり得る悪循環をつくりだしています。さらに、地域における課題、たとえば「多文化共生」などの課題も地球の課題と共通する部分が多く、つきつめれば同じ原因で問題が起こっていたりします。

「**持続可能な社会**」とは、「持続可能な開発」、つまり、次世代のニーズを満たす可能性を損なわないで環境を利用し、現在の世代のニーズを満たす開発が行われる社会のことを言います。グローバルイシューを解決しない社会は、持続「不可能」な社会なのです。

ミレニアム開発目標(MDs)

「今日われわれが直面する主たる課題は、グローバルイゼーションが世界のすべての人々にとって前向き力となることを確保することである」とする国連ミレニアム宣言では、国際社会の支援を必要とする喫緊の課題に対する具体的な数値目標として、8の目標、21のターゲット、59の指標を掲げています。

● 貧困と飢餓をなくそう！(極度の貧困と飢餓の撲滅)

地球上では、5人に1人が1日1ドル未満の所得で生活をし、7人に1人が慢性的な飢えに苦しんでいます。また、もっとも裕福な1%の人々が、もっとも貧しい157%の人々と同程度の所得を得ています。所得貧困により、十分な栄養を得られない、適切な教育や保健医療を受けられない、安定した職を得られないという困難に多くの人が苦しんでいるのです。

● 小学校に通えるようにしよう！(普遍的初等教育の達成)

1億1,500万人の子どもが学校に通っておらず、多くは南アジアとサハラ以南アフリカに住んでいます。途上国では5人に1人が学校に通っていないことになり、その5分の3は女の子です。また、世界中の成人のうち6人に1人が読み書きできません。その数は、8億7,600万人で、その3分の2は女性です。

● 男女の差をなくそう！(ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上)

教育を受けていない母親から生まれた子どもは、教育を受けている母親から生まれた子どもに比べ、栄養不良や5歳未満で死亡する割合が2倍になるというデータがあります。また、教育を受けた母親の子どもの就学率も高くなっています。

● 赤ちゃんを守ろう！(乳幼児死亡率の削減)

2002年、1,000人の子どものうち5歳未満で亡くなった子どもの数は、先進国では7人、南アジアでは97人、サハラ以南のアフリカでは174人に上ります。その背景には、貧困による不十分な食糧、不衛生な水、不公平な医療サービスが挙げられるほか、紛争や災害などで抵抗力の弱い子どもたちが犠牲となっているのです。

● お母さんを守ろう！(妊産婦の健康の改善)

51万5,000件に上る妊産婦の死亡の99%は途上国で起こっています。先進国では、2,900人に1人の妊産婦死亡率がサハラ以南アフリカでは13人に1人です。

● 病気をふせごう！(HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止)

HIV感染者の90%以上が途上国の人で、サハラ以南アフリカは感染者全体の70%を占めています。毎年5億人がマラリアに感染し、100万人以上が死亡しています。このうち90%はサハラ以南アフリカに住んでいます。

● 暮らしを良くしよう！(環境の持続可能性の確保)

世界の森林は、2000年までの10年間で日本の国土面積の2.5倍にあたる約9,400万ヘクタールが減少しました。そのうちの96%がアフリカと南米の熱帯林です。エネルギーの消費量は、世界の上位10カ国が全体の65%を占めており、そのほとんどが先進国です。世界の10億人以上が安全な水を利用できずにいます。下水道などの基本的な衛生施設を利用できない人は26億人にのぼります。

● 世界のみんで助け合おう！(開発のためのグローバル・パートナーシップの推進)

ミレニアム開発目標の達成には世界的な協力体制の下での取り組みが必要です。もはや開発は、国連や政府やNGOだけが取り組むものではありません。世界中の人々が協力しなければいけないのです。



この星をこれ以上こわし続けないで

～12歳の少女が地球サミットで語った伝説のスピーチ～

こんにちは、セヴァン・スズキです。エコを代表してお話します。

エコというのは、子ども環境運動(エンヴァイロンメンタル・チルドレンズ・オーガニゼーション)の略です。

カナダの12歳から13歳の子どもたちの集まりで、今の世界を変えるためにがんばっています。

あなたたち大人のみなさんにも、ぜひ生き方を変えていただくようお願いするために、

自分たちで費用をためて、カナダからブラジルまで1万キロの旅をしてきました。

今日の私の話には、ウラもオモテもありません。

なぜって、私が環境運動をしているのは、私自身の未来のため。

自分の未来を失うことは、選挙で負けたり、株で損したりするのとはわけが違うんですから。

私がここに立って話をしているのは、未来に生きる子どもたちのためです。

世界中の飢えに苦しむ子どもたちのためです。

そして、もう行くところもなく、死に絶えようとしている無数の動物たちのためです。

太陽のもとにでるのが、私はこわい。オゾン層に穴があいたから。

呼吸をすることさえこわい。空気にどんな毒が入っているかもしれないから。

父とよくバンクーバーで釣りをしたものです。数年前に、体中がんでおかされた魚に出会うまで。

そして今、動物や植物たちが毎日のように絶滅していくのを、私たちは耳にします。

それらは、もう永遠にもどってはこないんです。

私の世代には、夢があります。

いつか野生の動物たちの群れや、たくさんの鳥や蝶が舞うジャングルを見ることです。

でも、私の子どもたちの世代は、もうそんな夢をもつこともできなくなるのではないかと

あなたたちは、私ぐらいの歳のときに、そんなことを心配したことがありますか。

こんな大変なことが、ものすごいスピードで起こっているのに、私たち人間ときたら、

まるでまだまだ余裕があるようなのんきな顔をしています。

まだ子どもの私には、この危機を救うのに、何をしたらいいのかははっきりわかりません。

でも、あなたたち大人にも知ってほしいんです。あなたたちもよい解決法なんて、もっていないってことを。

オゾン層にあいた穴をどうやってふさぐのか、あなたは知らないでしょう。

死んだ川にどうやってサケを呼びもどすのか、あなたは知らないでしょう。

絶滅した動物をどうやって生きかえらせるのか、あなたは知らないでしょう。

そして、今や砂漠となってしまった場所にどうやって森をよみがえらせるのか、あなたは知らないでしょう。

どうやって直すのかわからないものをこわしつづけるのは、もうやめてください。

ここでは、あなたたちは政府とか企業とか団体とかの代表でしょう。

あるいは、報道関係者か政治家かもしれない。

でもほんとうは、あなたたちも、だれかの母親であり、父親であり、姉妹であり、兄弟であり、おばであり、

おじなんです。そして、あなたたちのだれもが、だれかの子どもなんです。

私はまだ子どもですが、ここにいる私たちみんなが同じ大きな家族の一員であることを知っています。そうです。50億人以上の人間からなる大家族。

いいえ、じつは3千万種類の生物からなる大家族です。

国境や各国の政府がどんなに私たちを分けへだてようとしても、このことは変えようがありません。私は子どもですが、みんながこの大家族の一員であり、ひとつの目標に向けて心をひとつにして行動しなければならないことを知っています。

私は怒っています。

でも、自分を見失ってはいません。

私はこわい。

でも、自分の気持ちを世界中に伝えることを、私はおそれません。

私の国でのむだづかいはたいへんなものです。

買っては捨て、また買っては捨てています。

それでも物を浪費しつづける北の国々は、南の国々と富をわかちあおうとはしません。

物がありあまっているのに、私たちは自分の富を、そのほんの少しでも手ばなすのがこわいんです。

カナダの私たちは、十分な食べものと水と住まいを持つめぐまれた生活をしています。

時計、自転車、コンピュータ、テレビ、私たちの持っているものを数えあげたら何日もかかることでしょう。

2日前ここブラジルで、家のないストリートチルドレンと出会い、私たちはショックを受けました。

ひとりの子どもが私たちにこう言いました。

「ぼくが金持ちだったらなあ。もしそうなら、家のない子すべてに、食べものと、着るものと、薬と、住む場所と、やさしさと愛情をあげるのに。」

家もなにもないひとりの子どもが、わかちあうことを考えているというのに、

すべてを持っている私たちがこんなに欲が深いのは、いったいどうしてなのでしょう。

これらのめぐまれない子どもたちが、私と同じぐらいの歳だということが、私の頭をはなれません。

どこに生れついたかによって、こんなにも人生がちがってしまう。

私がリオの貧民街に住む子どものひとりだったかもしれないんです。

ソマリアの飢えた子どもだったかも、中東の戦争で犠牲になるか、

インドで物乞いしていたかもしれないんです。

もし、戦争のために使われているお金をぜんぶ、貧しさと環境問題を解決するために使えば、

この地球はすばらしい星になるでしょう。

私はまだ子どもだけど、そのことを知っています。

学校で、いや、幼稚園でさえ、あなたたち大人は私たち子どもに、世の中でどうふるまうかを教えてください。

たとえば、

争いをしないこと

話し合いで解決すること

他人を尊重すること

ちらかしたら自分でかたづけること

ほかの生き物をむやみに傷つけないこと

わかちあうこと

そして欲ばらないこと

ならばなぜ、あなたたちは、私たちにするなということをしているんですか。

なぜあなたたちが今、こうした会議に出席しているのか、どうか忘れないでください。
そしていったいだれのためにやっているのか。
それはあなたたちの子ども、つまり私たちのためです。
みなさんはこうした会議で、私たちがどんな世界に育ち、生きていくのかを決めているんです。

親たちはよく「だいじょうぶ。すべてうまくいくよ」と言って子どもたちをなぐさめるものです。
あるいは、「できるだけことはしてるから」とか、「この世の終わりじゃあるまいし」とか。
しかし大人たちは、もうこんななぐさめの言葉さえつかうことができなくなっているようです。

おききしますが、
私たち子どもの未来を真剣に考えたことがありますか。
父はいつも私に不言実行、つまり、
なにを言うかではなく、なにをするかでその人の値打ちが決まる、といいます。
しかし、あなたたち大人がやっていることのせいで、私たちは泣いています。
あなたたちはいつも私たちを愛しているといいます。
しかし、いわせてください。

もしそのことばがほんとうなら、どうか、ほんとうだということを行動でしめしてください。

最後まで私の話をきいてくださってありがとうございました。

 『あなたが世界を変える日～12歳の少女が環境サミットで語った伝説のスピーチ』
セヴァン・カリス=スズキ／著 ナマケモノ倶楽部／編・訳 学陽書房発行



地球サミット

この伝説のスピーチは、1992年6月11日、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された国連の地球サミット（環境と開発に関する国際連合会議）の会場で、世界の指導者たちを前に行われました。

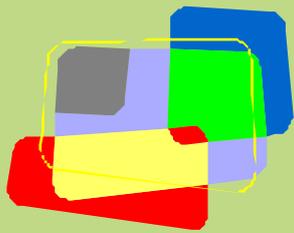
リオの地球サミットは、1992年6月3日～14日開催され、約180の国と地域の代表、国連機関、約8,000のNGO（非政府組織）が参加、延べ4万人を超える人々が集まった史上最大規模で、その後の様々な活動に大きな影響を与える会議となりました。

この会議では、持続可能な開発に向けた地球規模の新たなパートナーシップを構築するための「環境と開発に関するリオデジャネイロ宣言（リオ宣言）」とその行動計画「アジェンダ21」が合意されました。また、「気候変動枠組条約」と「生物多様性条約」が提起されました。会議開催後、「生物多様性」といった用語が一般にも知られるようになり、さまざまな地球環境問題や生態系、絶滅危惧種等に対する一般の関心が高まるきっかけになりました。

国際連合による環境や開発を議題とする会議は約10年ごとに開催されており、2002年に南アフリカ共和国のヨハネスブルグで開催された「持続可能な開発に関する世界首脳会議（環境開発サミット）」は第2回地球サミットとも呼ばれています。

なお、この第2回地球サミットをきっかけに日本の提案により、2005年からの10年を「持続可能な開発のための教育の10年」とすることが決定されました。これは、「環境教育」「開発教育」「人権・平和教育」を3つの柱とし、「共生と公正を基本とした循環型の社会づくり」を目的としています。

参 考 资 料



目で見るルワンダ



この国旗は2001年12月末に発表されました。1994年にフツ族がツチ族に対して行った大虐殺の遺恨を乗り越え、心機一転して国づくりをしようという意欲を表して赤は用いられていません。青は幸福と平和、黄色は勤労による経済の発展、緑は繁栄への希望、太陽は統一、透明性、忍耐という、国家と国民の目標を示しています。

●人口●

 10百万人 (2008年国連人口基金)



 128百万人



●面積●

 26,300km²

 377,887km²



●言語●

キニアルワンダ語、英語、
仏語

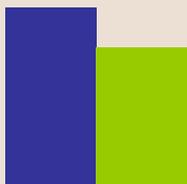
●宗教●

カトリック57%
プロテスタント26%
アドベンティスト11%
イスラム教4.6% 等

●気候帯●

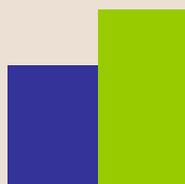
熱帯サバナ気候に属している
が高山気候の影響が強い

●平均気温●



キガリ 名古屋
20.4°C 15.4°C

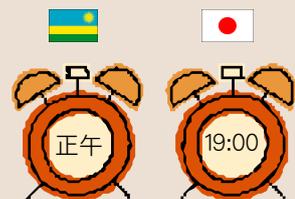
●年間降水量●



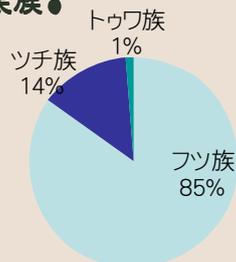
キガリ 名古屋
1,065.9mm 1,565mm

●日本との時差●

-7時間



●民族●



●通貨●

ルワンダ・フラン
1ドル=571ルワンダ・フラン

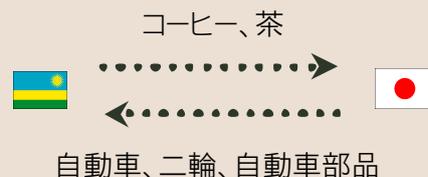
◆国旗:『世界の国旗』吹浦忠正監修 (Gakken) ◆人口・面積・首都・民族・通貨:外務省ウェブサイト「各国・地域情勢」 ◆日本の人口:世界子供白書2009 (ユニセフ) ◆日本の面積:総務省統計局「日本の統計」 ◆気候帯・平均気温・年間降水量:外務省ウェブサイト「探検しよう!みんなの地球」 ◆名古屋の平均気温・年間降水量:気象庁観測部観測課観測統計室「日本気候表」(S46~H12年の平均) ◆言語・日本との時差:世界の国一覧表 (財団法人世界の動き社)

●主要産業●

農業(コーヒー、茶等)



●日本との貿易主要品目●



●一人あたりのGNI●

320米ドル(2007年世銀)



37,670米ドル(2007年世銀)



●在留邦人数●

39人(2009年7月現在)



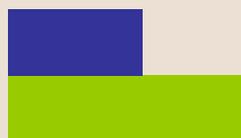
●在日ルワンダ人数●

25人(2009年7月現在)

●出生時の平均余命●

46年

83年



●都市人口の比率●



21%(2007年)

66%(2007年)

●5歳未満児の死亡率●
(出生1000人あたり)

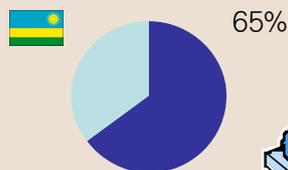
181人(2007年)



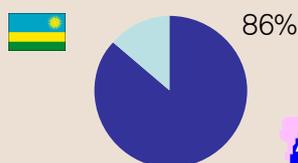
4人(2007年)



●成人の総識字率●
(2000~2007年)



●初等教育●
純就学/出席率
(2000~2007年)



●人口増加率●
(1990~2007年)

1.7%

0.2%



◆主要産業・日本との貿易主要品目・在留邦人数・在日当該国人数:外務省ウェブサイト「各国・地域情勢」◆一人あたりのGNI・出生時の平均余命・都市人口の比率・5歳未満児の死亡率数・成人の総識字率・初等教育純就学/出席率:人口増加率:世界子供白書2009(ユニセフ)

ルワンダ地図





アフリカ





参考文献・データ等の出典

- 外務省「各国地域情勢」
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/>
- 外務省「探検しよう! みんなの地球」
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sanka/kyouiku/kaihatsu/chikyuu/index.html>
- 総務省統計局「日本の統計」
<http://www.stat.go.jp/data/nihon/index.htm>
- 財団法人日本ユニセフ協会「世界子供白書2009」
<http://www.unicef.or.jp/library/index.html>
- ルワンダ大使館
<http://www.rwandaembassy-japan.org/jp/>
- ルワンダからの混ぜこぜ情報（青年海外協力隊OB巢山裕記のサイト）
<http://japaneazz.com>
- 佐々木さんを支援する会
<http://rwanda-wakai.net/>
- 世界経済のネタ帳
<http://ecodb.net/>
- 日本の棚田100選
<http://select100.pdc-web.jp/tanada2008/>
- ワールドコーヒービーンズ倶楽部
<http://www.coffee-w.co.jp/>
- 『アフリカにおける紛争後の課題』調査研究報告書 アジア経済研究所 2007年 武内進一編
http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Download/Report/pdf/2006_04_15_08.pdf#search=
- 『戦争と平和の間』アジア経済研究所 2008年 武内進一編

ご協力いただいた方たち【敬称略】

- 滝 栄一
- 巢山裕記 (JICA青年海外協力隊OB)



2009年度教材作成チーム

安城市 長久手町
東海市 甚目寺町
東海市国際交流協会 東郷町
みよし市

特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センター
財団法人 愛知県国際交流協会





世界の国を知る  世界の国から学ぶ

わたしたちの地球と未来

 ルワンダ共和国 

2010年3月

**発行
編集**

財団法人 愛知県国際交流協会

〒460-0001

名古屋市中区三の丸二丁目6番1号

あいち国際プラザ

TEL:052-961-8746 FAX:052-961-8045

E-mail:koryu@aia.pref.aichi.jp

URL : <http://www2.aia.pref.aichi.jp>



印刷

トッパン・フォームズ株式会社

